

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201427		
法人名	有限会社アップルケア		
事業所名	グループホームりんごの樹		
所在地	長野県松本市石芝3丁目9番5-3号 (電話) 0263-25-6907		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年4月17日	評価確定日	平成20年5月14日

【情報提供票より】 (平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤10人, 常勤換算 16.8人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000円(夏季)・18,000円(冬季)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	1	要介護 2	9
要介護 3	6	要介護 4	2
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 85.4 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・松本中川病院 ・洞沢医院 ・筒井歯科医院 ・三輪眼科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松本インターから国道19号を塩尻に向かうと、果樹地帯の面影を残した新興住宅地にグループホームりんごの樹がある。開所して3年、職員は理念の実践に取り組みながらかゆい所に手が届く木目細かなケアを提供している。重度化に対する指針があり、入居者家族の意向に沿いながら本人、家族、医師、職員が方針の統一を図り看取りを実践している。また、「脱オムツ」を目指し、全員がオムツを使わない生活が出来ている。この春休みに交代でボランティア活動に訪れた近くの高校生から「とてもいい体験が出来た」、「福祉の仕事に関心が出てきた」などの礼状が届いている。りんごの色を連想する「みどり」と「きいろ」をユニット名にし、「入居者の自立を目指し、自分らしく生き活きと暮らし続けること」を優しく見守っている温かでやすらぎのあるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点については全員で検討し、改善に取り組んだ。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は今回で3回目である。職員一人ひとりが日々のケアを振り返り、自己評価を行ってから全職員で気づいたことや出来ていないことなどを出し、話し合った。見出された課題に関しては改善に向け具体的に検討している。また、職員の意思統一など、ケアサービスの質の向上に役立てた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は入居者家族、町会長、包括支援センター職員、ホーム代表者と管理者で構成されているが、開催時間やメンバーの調整が出来ずお休みをしている。市の担当者とは何でも気軽に相談できている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が気軽に話せる雰囲気作りに努めながら、意見、苦情などを伺っている。家族から頂いた課題は全職員で話し合い、サービスの質の向上に役立っている。毎月発行のホーム通信「りんご便り」には写真入りで日常の様子を報告し、同時に通信欄も設けて一人ひとりの様子が更に詳しく家族に伝わるよう工夫し、包み隠さず報告することも大切にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民との交流は散歩や夏祭りなどの行事の際に積極的に行っている。近くの高校の環境福祉科生徒が春休みにボランティア活動をしたとき、入居者が生き活きと生活している姿を見て驚き、机の上では学ぶことの出来ない貴重な体験をしている。また各種団体や個人のボランティアの訪問が定期的であり、地域住民と交流する機会は多い。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「温かい安らぎのある暮らし」、「地域との交流」などを理念として掲げている。地域密着型サービスの意義を全職員は理解している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	提供しているサービスが理念に基づくものかどうかホームミーティングなどで話し合い、理念の実践に取り組んでいる。代表者や管理者は機会あるごとに理念に触れ、入居者に関わる際の基本的な姿勢を教え、導いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のお祭りなど行事に出掛けている。各種団体、個人のボランティアによる定期的な訪問があり入居者と交流している。近くの高校の環境福祉課生徒20名が交代で4日間ボランティア活動を行い、入居者が生き活きと生活していることに感銘を受け、貴重な体験が出来たと礼状が届いている。		
ari					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自らのケア等を振り返りながら各自で行った後、全職員で気づきなどを話し合っている。出来ていない項目に関しては改善している。自己評価を行ったことで職員の意思統一などケアサービスの質の向上に役立てられた。		

グループホーム りんごの樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族、町会長、包括支援センター職員、ホーム代表者と管理者で構成されているが、開催時間やメンバーの日程調整が出来ずお休みしている。	○	開催の時間帯やメンバーの都合などを考慮しながら運営推進会議を再開されることを望みます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢福祉課担当者とは何でも相談できる関係が構築されている。担当者は事業所に代わり県に問い合わせや確認を行うなど問題解決に向け一緒に取り組んでいる。今年度より介護相談員の訪問が始まった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしや職員の紹介、行事などは毎月発行の“りんご便り”で報告している。“りんご便り”には通信欄が設けてあり、職員は受け持ち入居者の様子を手書きで家族に伝えている。金銭面に関しては面会時に確認していただいている。遠方の家族には毎月、領収書と共に出納帳や領収書の写しを送り確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に見えたときには気軽に意見や要望、何でも気軽に話せるように声がけをしている。出された意見等は全職員で話し合い運営に反映させている。意見箱も設置しているが、意見や要望などが投函されたことはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動があるので入居者には包み隠さず報告している。“りんご便り”にも職員の異動を載せて家族に報告している。やむを得ず職員が代わる場合には入居者に影響がないように取り組んでいる。		

グループホーム りんごの樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は積極的に行われ資質向上に繋がっている。研修は経験年数や職種など段階に応じて指名や交替で参加している。ホームミーティングで報告して研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回松本地域のグループホーム連絡会に参加し情報交換をしている。また、学習会や相互訪問の活動にも参加している。職員の交流のみではなく入居者の交流も始まっている。他ホーム入居者が訪ねてきて謡曲を披露してくれたので、今度は自分たちが出かけte行き歌でお返しすることを計画している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間体験利用した上で利用者、家族と相談している。入所判定委員会を設けている。体験利用は馴染みの関係が構築されるので、利用開始後の落ち着いた生活に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活暦や好きな事、出来る事を事前に把握している。職員は「一緒に暮らしている、生活している」ということを念頭に入居者の出番や得意なことをお願いしている。入居者から思わぬ時にいい知恵を教えられることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや気持ちを大切にしている。日々の関わりの中で会話やつぶやき、行動などを観察しながら意向や気持ちの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受け持ち担当者は家族の思いを伺い、本人らしい生活、自立した生活が送れるようにアセスメントをしっかりと行っている。全職員で話し合い入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や本人の状態を確認しながら見直しをしている。状態や意向等が変わった場合は現状に即した介護計画になるように新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて家族に代わり病院に付き添っている。看護師は医療機関に状態の連絡や相談もしている。また、買い物や外出にも付き添うなど柔軟な支援をしている。		

グループホーム りんごの樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談しながらホームの協力医療機関で受診している。定期的に往診もある。また、薬帳があり、かかりつけ医からの指示や処方されている薬の内服量や薬効などが記録されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する指針が定めてある。看取りに関しては医師や訪問看護師を講師に招き知識や心構えなどを学んでいる。職員は方針を共有し、看取りに取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中でプライバシーや個人情報の取り扱い等を常に意識しながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に入居者の希望や意向を確認しながら支援している。職員が衣装ケースを工夫したことで身支度が自身の力で出来るようになった入居者もいる。		

グループホーム りんごの樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は野菜を切ったり盛り付けするなど、出来る範囲で食事の準備をしている。片付けもお茶碗を運んだり重ねるなど、出来ることをしている。食事中は料理の出来栄を褒めあうなど和気藹々、笑い声が絶えないにぎやかな時間を過ごしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の気持ちに沿って午前または午後、時間を設けている。気分良く入浴できるように場の雰囲気大切にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事が計画されている。外出の好きな入居者は外に出掛け、行かない入居者は歌を歌ったり、自分のしたいことをしている。職員は入居者一人ひとりの行動を尊重しながら柔軟に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前には広い庭がありベンチがセッティングされている。庭を取り囲むようにりんごの木々があり庭先でのお茶やおしゃべりも楽しめる。天気のよい日には近くを散歩したり庭で過ごしたりと気分転換を図っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けない支援を実践している。鍵を掛けることの弊害を職員は理解している。		

グループホーム りんごの樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・通報訓練・消火訓練は消防署の協力を得ながら、年2回行っている。通報の仕方、消火器の扱い方も訓練し不測の事態に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は看護師が中心になり作成している。献立には旬の献立や入居者の好物も組み込まれている。食事の摂取量や水分量のチェックがされており職員は一人ひとりの情報をおおまかに把握している。	○	栄養バランスに関して、定期的に栄養士からのアドバイスを受けられることを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光、換気に配慮された設計であり明るく開放感がある。浴室・トイレは広く、廊下も車椅子がすれ違える程のゆとりがある。こいのぼりと立派なお節句の飾りが飾られた居間では入居者が懐メロを歌っていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花、写真、位牌、テレビや飾り物など馴染みのものが持ち込まれ、安心して過ごせる居室になっていた。		

※  は、重点項目。